

授業改善のポイント 第4学年

話題に沿って必要な事柄を選択する力を付ける

相手や目的を明確に意識する。

森林公園で行っているしぜんと
ふれあう楽しいイベントについて調べよう。



取材したことを「だれに」「どういう目的で」伝えるのか、という相手意識・目的意識を明確にもたせることが大切です。取材前の課題設定の段階を丁寧にあつかい、書いた文章を相手がどのように受け止めるかなどについても考えさせて取り組みます。

調べたことを紹介文にまとめ、クラス
のみんなに伝えよう。

整理・分類し、必要なカードを
選択する。

はじめに、インタビューの内容をカード（取材メモ）に整理します。そのとき、カードごとに見出しを付けると内容が分かりやすくなります。次に、内容に着目してカードを分類します。そして、自分が紹介したい事柄に適しているかどうかを考えながらカードを取捨選択します。

キ 森の植物を守る活動

- ・木や花のなえを植えて育てている。
- ・小さい木がざつ草に負けないうよう、草かりをしたり、日光が当たるよう、いらないうえだを切ったりする。

ク 公園のしぜんを大切に するよびかけ

- ・森林公園の植物や生き物を勝手にとらないようによびかける。
- ・ごみの持ち帰りをよびかける。

選ばなかったカード
「しぜんを守るための活動」

ケ 植物を利用した りょう 工作教室

- ・木の実や葉っぱなどを使って工作をする。（竹笛、木の実のネックレスなど）
- ・植物の色でハンカチをそめる草木ぞめをする。

カ しぜんかんさつ会

- ・きせつの植物や生き物をおんさつして楽しむ。
- ・カブトムシやトンボなどのこん虫の体のつくりを調べる。

選んだカード

「しぜんとふれあう楽しいイベント」

段落の役割を理解し、文章を構成する力を付ける

内容のまとめりとして段落をとらえて書く。

「はじめ」「中」「終わり」の基本的な構成の意味を理解させ、それぞれに何を書くのか考えさせます。

《組み立て表》を利用すると、自分の考えを分かりやすく整理することができます。そのとき、段落ごとに小見出しを付けることで、段落の内容をはっきりと意識することができます。

《組み立て表》

終わり	中		はじめ
○ まとめ	教室 植物を利用した工作 イベント2	○ しぜんとふれあう イベント1 しぜんかんさつ会	○ 森林公園のじまん ・しぜんとふれあう楽 しいイベントがある

「はじめ」から「終わり」までの整合性を意識する。

書き進めているうちに、「まとめ」が最初の話題からずれてしまうことがあります。「終わり」の段落には、「はじめ」の部分で提示された話題に対応する内容を書きます。「このように」などの接続詞を使って文章全体のまとめを書きます。

「中」の構成を考える。

話題を受けて、具体的な内容を記述します。「まず」「次に」といった累加や、「一つ目は」「二つ目は」といった並列などの書き出しの表現を考え、伝えたい内容がより明確に伝わるよう、段落の配列を工夫します。

「はじめ」の部分で話題を提示する。

森林公園のじまんとして、しぜんとふれあう楽しいイベントがあることを話題として示します。

資料を活用して記述する力を付ける

メモの内容を文章化する。



書きたいことを中心をはっきりさせて書きます。段落のはじめに、その段落で伝えたい内容を一文で書き、次に、具体的な事例を書くと読む人に分かりやすく伝えることができます。メモの内容だけでなく、思ったことや様子を付け足して書くことも大切です。

事例

《紹介文の一部》

《取材メモ》

次に、森林公園では、植物を利用した工作教室を行っています。木の実や葉っぱなどを使って工作をします。竹笛やネックレスなどいろいろなものを作ることができます。それから、植物の色でハンカチをそめる草木ぞめもしています。自分だけの作品ができるので、とても楽しいと思います。

思ったこと

伝えたい内容を一文で書く。

ケ
植物を利用した工作教室

- ・ 木の実や葉っぱなどを使って工作をする。(竹笛、木の実のネックレスなど)
- ・ 植物の色でハンカチをそめる草木ぞめをする。

*事例の書き方には、「例えば～」 「～などがあたります」といった表現もあります。

字数や時間の制限の中で書く経験を重ねる。

時間内で決められた字数で文章を書く活動場面を多く設定しましょう。ただ書くのではなく、字数や時間を意識して書く習慣を付けることが大切です。

自分の考えを15分で
300字にまとめてみよう。



目的に応じて、文章を見直す力を付ける

文末表現（敬体・常体）をそろえて書く。

児童の作文では、敬体と常体が混在していることがあります。敬体と常体の文末表現は、相手や目的を考え、意識して使い分けることが大切です。書いたものを読み直して、文末表現を統一させましょう。



その文章は、どういう目的で、誰に読んでもらうのか考えてごらん。
これは、森林公園のじまんを友達に紹介する文章だから、ていねいな言い方（敬体）で書いた方がいいね。もし、自分しか読まない日記なら、常体で書いてもいいね。

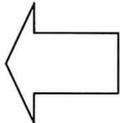
文末は、敬体にそろえよう。

<推敲後>

森林公園のじまは、しぜんとふれあう楽しいイベントがあることとです。まず、しぜんかんさつ会があります。きせつの植物や生き物をかんさつします。生き物のかんさつでは、カブトムシなどのこん虫をさわったり体のつくりを調べたりします。生き物のことがとてもよく分かり、もつといろいろなこん虫のことを知りたくなります。

感想を付け加えて、イベントのよさが、より伝わるようにしましょう。

誤りを正す。



よりよい表現に書き直す。

<推敲前>

森林公園のじまは、しぜんとふれあう楽しいイベントがあることとです。まず、しぜんかんさつ会があります。きせつの植物や生き物をかんさつします。生き物のかんさつでは、カブトムシなどのこん虫をさわったり体のつくりを調べたりする。生き物のことが分かる。

文末表現や表記上の誤りだけでなく、「相手や目的に応じているか」「自分の考えを明確に記述しているか」という点からも文章の内容について見直し、よりよい表現に書き直してみましょう。推敲前と推敲後の原稿を比べて読み、読み手の立場になって受け取る印象を話し合ってみるとよいです。



*その他の見直しポイント
主語と述語や修飾と被修飾の関係、助詞の使い方、断定、推量、疑問などの文末表現に気を付けて見直しをしましょう。